兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科の紹介
－地域資源マネジメントとは－

内藤和明・大迫義人（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科）

はじめに

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科は，但馬地域において，コウノトリとジオパークのような地域に内在する「自然資源」の保全と活用，またそのマネジメント理論を構築し，地域社会活性化を「民学（および官）連携」の立場から実践している．それを汎用性の高い新たなマネジメント論に統合・昇華し，「独自の理論をもって地域社会活性化を実践できる後進の育成」を指向している．これらを実現する新たな学問領域が「地域資源マネジメント」である．

地域資源マネジメントとは

1) 地域資源

地域に内在する自然資源と，これに基づいて成立している社会・文化資源を地域資源と捉えている．

2) 学問領域を時間軸と空間軸で統合する高度な教養

地域資源マネジメントは，地球科学（ジオ）・生態学（エコ）・人文社会科学（ソシオ）という三つの学問分野を基盤とする．これらは，それぞれ異なる時間スケールを扱うが，「地域の歴史」という時間軸（縦軸）と「地域社会」という空間軸（横軸）を共有することにより，これらを総合的に扱う新たな視座がひらける（図 1）．すなわち，地域の大地上・生態系内での相互作用の結果として進化・発展してきた「自然・社会・文化のダイナミックな関係性」を重層的・有機的つまり構造的に解明しようとする視座であり，この関係性を中心にすえた知の体系である「人と自然に関する高度な教養」を構築する．

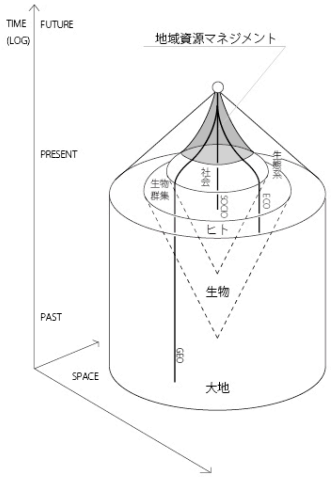

図 1. 地域資源マネジメントの概念図.

地球科学（ジオ）・生態学（エコ）・人文社会科学（ソシオ）という三つの学問分野を基盤とし，地域住民が誇りをもって「心豊かな共同体としての持続可能な地域社会」を再生・創造するための理論と，社会に還元するための実践スキルの総体を地域資源マネジメントと定義している．

3) 民学連携による地域資源の発掘と保全・活用

「人と自然に関する高度な教養」を身につけたうえで，つまり地域における自然・社会・文化の歴史的関係性の理解・認識を踏まえて，現代及び未来の社会へ目を向ける．すなわち，各学問分野のあつかう素材を，持続可能な地域社会をつくりあげるための地域資源と捉え，これを民学連携，つまり地域住民との連携・協働の「過程と成果の共有」を通して実現する．このように現代社会の関心と課題に即した形で，新たな地域資源の発掘と活用による保全を行ない，地域社会に貢献することができる．また，これを常に行政との連携のもとに行い，地域のシンクタンクとしての機能も果たす．

4) 理論と実践スキルの総体としての地域資源マネジメント

以上により，地域住民が誇りをもって「心豊かな共同体としての持続可能な地域社会」を再生・創造するための理論と，社会に還元するための実践スキルを創りあげる．この理論と実践スキルの総体が地域資源マネジメントである．

教育と研究

本研究科には，ジオ研究領域３名，エコ研究領域４名，ソシオ研究領域３名の計 10 名の教員が在籍し，ジオパークやコウノトリなどの魅力ある地域資源を活用し，「地域に内在する自然・社会・文化のつながりを科学的に解明し本質的に理解する理論と素養を身につけ，地域資源の発掘・保全・活用を実行できる人材」を育成するための教育と研究を行っている．多様なバックグラウンドを持つ教員が教育研究を行い，比較的少人数であるため細やかに対応できることが特色である．

カリキュラムには，地球科学概論，生態学概論，社会学概論などの基礎を学ぶ基盤科目，地形地質，生態学，地域社会分野などのフイールドワークの方法論を学ぶ演習科目，地域資源マネジメント論，地質資源とジオパーク論，田園生態資源論，社会文化資源論などの実践を学ぶ専門科目が含まれる．

学生生活

社会人学生を含む多様な世代の大学院生との交流や，研究フィールドである地域との交流が図られている．また，キャンパス近くに立地する公営住宅や登録有形文化財を活用したシェアハウスへの入居制度など学生のニーズに応じて居住を支援する仕組みが充実している．

入学試験

入学試験は専門試験と口述試験で構成され，8 月，12 月，および 3 月に行われる．英語の試験は含まれない．指導予定教員と相談しながら修士論文の研究計画を予め作成して出願する．詳しくは，下記まで．

Email: rrm@ofc.u-hyogo.ac.jp
電話: 0796-34-6079（研究科事務）

※兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科ウェブサイト
http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/